野の花

第 81 号
発　行
社会福祉法人いわき福音協会
野の花ホーム
いわき市平上平窪字羽黒 40-51
TEL (0246) 24-1201
FAX (0246) 24-1202
メールアドレス
soumuka@bz04.plala.or.jp

七年振りの帰郷

所長　佐藤　護

東日本大震災から半年が経過しました。相変わらず余震は続きますが野の花ホームの生活もようやく震災前の状態に戻りつつあります。しかし原発事故の周辺地域住民は今なお避難生活を続けており、日々の生活に苦闘する様に胸が痛みます。

原発の北西部には全村避難で知られる飯舘村があります。村長の菅野氏はアイデアマンとして知られ、村づくりの方針を「までいライフ」とし、都会の便利さやモノの豊かさではなく素朴ながら丁寧で心豊かな村づくりを提唱し実践された方でした。「までい」とは東北地方の方言で手間ひまをかけるとか丁寧という意味があり、地方によって「まで」とか「までぃ」と言いますが誠心誠意心を込めるといった意味は共通しているのではないかと思います。村民一丸となって取り組んできた桃源郷づくりの矢先、突然このような不条理に遭遇してしまった無念さを思うと言葉がありません。早期の事故収束と村民が一日も早く「までいライフ」の地に帰宅できることを祈るばかりです。

さて、私にとって野の花ホームは七年振りの帰郷となりました。懐かしさに浸る間もなく利用者の皆さんの生活の様子が知りたくて介護現場に直行し、そこで目にした光景は重度化が進み自発的な発語や行動の乏しい利用者が増えているという現実でした。これまで在籍していた通所施設の利用者とは違った意味で対応の難しさを痛感しました。入所施設の職員と利用者の関係は家族以上の付き合いになるため、良くも悪くも馴れ合いになりがちです。常に緊張感を持って観察力を向上させないと良い支援につながりません。ましてや職員の不作為による心身機能の低下などは絶対にあってはならないことです。今、ホームに必要なことは利用者の生活を活性化すること、これは全職員が心を一つにして取り組むべき喫緊の課題であると思います。

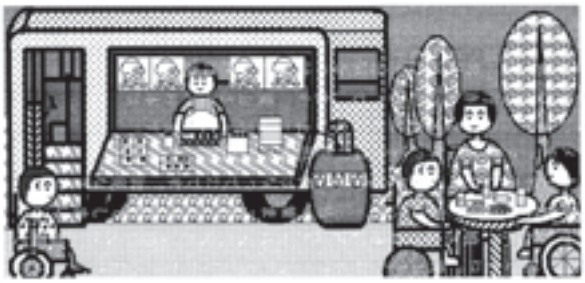
介護とは介護業務を通して自立支援を図ることであり、利用者の皆さんの自己選択、自己決定の権利を最大限尊重しながら自立生活をサポートしていくことにあります。その意味で介護の仕事は時間と労力を惜しまず誠実で丁寧な対応をという点において上述「までい」の考え方そのものなのです。「ケアワーク」を「までいワーク」と言い換えると普段何気なく使っている言葉に奥深さと豊かな表現力が生まれます。正に方言の持つチカラ恐るべしです。

利用者サービスの質の向上は、野の花ホームが長年取り組んできたテーマです。問われているのは職員一人一人が原点回帰の謙虚さを持って「までいワーク」を実践できるかに尽きるということです。

9月8日、東北大名誉教授・当法人理事 吉原賢二先生をお迎えし、放射能汚染について法人職員研修会が開催された

ニュースクリック

2011 野の花ホーム 夏まつり



佐々木留美子さんのワープロ画

『平成二十三年度・野の花ホーム夏まつり』が八月二十七日（土）に開催されました。

今年は三月十一日に東日本大震災が起こり、震災後も不自由な生活を強いられたため、利用者の皆様は、大きなストレスを抱えていたと思います。野外での開放的な雰囲気の中、皆で出し物や食事を楽しむ夏まつりは、震災後、初の大きなイベントでもあり、皆さんとても楽しみにしていました。

当日は朝から曇り模様で小雨も降っており、野外で開催できるか判断に迷ったのですが、皆さんの普段の行いが良かった事もあり、昼には雲も晴れ、絶好の祭り日和となりました。

午前中の雨の影響で会場のセッティングは例年より遅く始まりましたが、今年は「かがやき」の利用者さんや職員さんが来てくださり、炎天下の中、やぐらや舞台、テーブル等のセッティングもスムーズに行うことが出来ました。「かがやき」の皆様、当ホーム職員、本当にご苦労様でした。

夕方五時に佐藤護所長より挨拶と開会の言葉を頂き、待ちに待った夏まつりが始まりました。最初に「平窪伝統芸能クラブ」による子供じゃんがらの演舞です。じゃんがら念仏踊りは、いわき地方に伝わる伝統芸能として知られる夏の風物詩。浴衣に鉢巻き、たすきがけ、白足袋姿の子供たちが太鼓と鉦の音に合わせて見事な踊りを披露してくれました。震災が起きて五ヶ月あまり。鎮魂、供養…皆さん各々が様々な思いを抱いて、この踊りを見ていたことと思います。

続いての利用者さんによる歌謡ショーでは、OさんとYさんが、大勢の人が見守る中、若干緊張気味で自慢の歌声を披露して下さいました。次は、去年に続き二度目の参加となりました「ザ・和風」のお二人によるバンドパフォーマンスです。心地よいリズムと音色に皆さんリラックスムードで演奏を聴いていました。

男子棟と女子棟職員によるパフォーマンスもこの日のためにアイデアを出し合い、打ち合わせを繰り返してきました。その甲斐もあり、盛り上げることが出来たと思います。

毎年恒例のビンゴゲームでは、「リーチ！」「ないー」「えぇー」など賑やかな歓声があちらのテーブル、こちらのテーブルで沸きあがり、「ビンゴ」という声には拍手が…。賞品を持って席に帰る姿は皆、とても嬉しそうでした。最後に花火観賞を行った後、山際次長による閉会の挨拶で無事、今年も野の花・夏まつりを終えることが出来ました。

ボランティアで参加して頂きました「麦野会」と「ハッピーケア」の皆様、個人ボランティアで参加頂きました白石ヒロ子さん、素晴らしい演目を披露して頂きました「平窪伝統芸能クラブ」の皆様と、「ザ・和風」のお二人。美味しいたこ焼きを提供して下さいました「大阪虎屋」さん。会場セッティングを手伝って下さった、「かがやき」の皆様。

皆様のご協力のおかげで、今年も夏まつりを成功させることが出来ました。職員、利用者一同、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

（SAKAMOTO）

長い間、お世話になりました！

佐々木留美子

「二十二年間」と一口に言いますが、岡部所長さんや敦子さんには、口では言い表せないほど、お世話になったり迷惑を掛けました。

私は、絵を描くのも見るのも好きでした。何とかワープロで絵を描けないかと考えてました。ある日のこと、絵らしい物が描けたのです。私は喜びました。そして所長さんに見せました。そしたら所長さんが、「この絵を野の花の新聞に載せていい？」とたずねました。下手で恥ずかしいと思いながら「うん」と返事をしました。その一週間後、新聞が出来てきました。ちゃんと載っていました。嬉しくって嬉しくって一人で泣いてしまいました。その後も新聞に載せていただきました。そのうち、描く物がなくなりました。今は、何もやる気がなくなりました。岡部所長さんには、色んな事を教えてもらいました。本当に有難う御座いました。

敦子さんにも心配や迷惑をかけっぱなしでしたね。でも、こんな我儘な私を三年間受け持ちになっていただいた事がありました。野の花ホームの旅行も一緒に連れて行ってもらいました。敦子さんは、お酒は全然駄目でしたのに、私が好きなことを分かっていて飲ませてくれました。お土産を沢山買っても怒らずに、文句も言わずに持ってくれました。年一回の「野の花祭」には、私は出す物がないので、家に帰って遊んで来ようと思っていました。そこに敦子さんが、部屋に来て「出す物ありますか？」と聞きにきました。忙しい敦子さんは、考えてくださり、「障害者の旅行の事を文集にしたら…。私も手伝うから…」と言ってくれましたが、私には文の脳味噌がないので「書けない」と断ったのです。でも、敦子さんは、何回も部屋に来てくれました。私も考えました。あんなに一生懸命にすすめてくれる敦子さんを、私は愛しくなって「下手でも書こう」と書いたのです。「車椅子の一人旅」を題にして、思い出しながら書きました。敦子さんは、勤務を終わってから、印刷をして紙を折ってホッチキスで止めて、二週間くらい掛かってやっと出来ました。あんなに立派な本になろうとは、思ってもみませんでした。私は、感謝でいっぱいでした。本当に敦子さん有難う御座いました。色んな面でお世話になりましたね。またお世話になるかも知れません。その時は、宜しくお願い致します。

野の花ホーム敷地内 放射線測定の実施について

防災担当　山内　政彦

東日本大震災による福島第一原発の事故により、私達の周辺でも放射能による色々な影響が出ています。

しかし、『野の花ホーム』の在るいわき市は、幸いにもと言うべきか、放射線の数値が低くなっております（このまま何事もなければ、年間積算量が1ミリシーベルト以下）。

しかし、そうは言っても放射能は目に見えないので、事故後から利用者・職員共々不安な日々を過ごしておりました。特に毎日を施設で過ごす利用者の方からは、「野の花ホームはいったいどれくらいの線量があるのか」と、聞かれることが度々ありました。

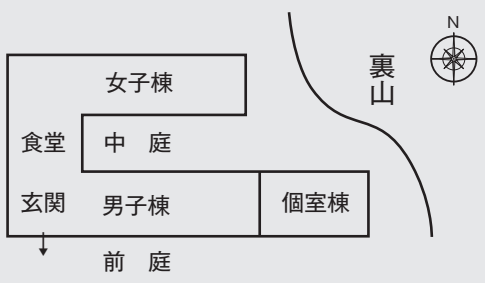
そんな中、法人本部で放射線測定器を購入し、各施設の線量を測ることになりました。野の花ホームでは月に一回、主に皆さんの生活に係わる場所を中心に、11か所の地点で線量を測定しております。

今回は、11カ所の測定地点の内、利用者の皆さんが接触する頻度が最も高いと思われる施設内・玄関・中庭（下図参照）の測定値の各平均数値を紹介したいと思います。

▼玄関（0・19：0・17）
▼男女棟各居室内（0・09：0・09）
▼男女棟各センター（0・11：0・11）
▼個室棟内（0・09：0・10）
▼食堂（0・11：0・10）
▼中庭（0・22：0・21）

その他の測定場所でも、0・09～0・20の間の数値でした。

確かに中庭等の一部では、県が公表されている数値を、問題の無いレベルで若干上回りましたが、その他の場所では概ね低い数値が測定されましたので、皆さん安心して生活して頂きたいと思います。



測定器：Ｒａｄｉ（ラディ：ホリバ製）
測定値：地上２点（10㎝：1m）
単　位：μＳ／ｈ（マイクロシーベルト／時）

野の花交差点

野の花ホームの居宅支援について

支援係長　渡邊孝代

介護の現場から七月一日より居宅支援の担当になりました。

主に短期入所、日中の生活介護利用の受入れのお手伝い等をしています。

さて、初めて短期入所を利用するにあたっては、不安を感じられる方が多いのも事実です。

3・11の震災では、在宅での単身生活者やケアホーム利用者等は、社会インフラのマヒによって生活が成り立たない、家が津波で流され生活が出来ない、また、介護者不在等の不測の事態が起きました。その際、緊急的理由で当ホームに短期入所した方もおられました。

当ホームでは、今後、こういった緊急の場合でなくても、もっと気軽に短期入所をご利用いただきたいと考えています。障害が重度で意思疎通が困難な方が、全身で環境変化を感じ訴えてくる様子を観る度、「緊急で利用という形ではなく、日ごろから気軽にお泊り感覚で利用して頂ければ…」と思わずにいられません。

また、少しでも利用者の施設生活が充実すればとの配慮から、同法人の「光の家」や他事業所の生活介護の利用も受け入れております。

目的としては、他の利用者と交流を持ち、コミュニケーションを図りたい、入浴の回数を増やしたい等、様々であります。もちろん当ホームでも日中の生活介護の受け入れをしております。現在通所されている方は、利用者との交流はもちろんのこと、パソコンクラブ等に参加して過ごされています。満足度は「まあまあ良い」とのこと。Oさんお気づかいありがとうございます。

当ホームでは利用者や家族の皆さんが安心出来、「今後も利用したい」と思って頂ける様、皆様の要望に沿う支援を第一に心掛け、充実したサービス提供と環境整備の構築に日々努めております。

前任者の努力もあり、サービス開始当初と比べ、今では、利用して下さる皆様各々が、自分の生活スタイルを身につけ快適に過ごしている姿を多く見受けられるようになってきました。今後は、さらに、利用者の声を大事に受け止め、支えていきたいと思います。

皆様、宜しくお願い致します。

思い出写真館

6/12 平バプテスト教会より花の日慰問

6/23 利用者日帰り旅行（大洗水族館）

七夕まつり

全居室 地デジ化完了

個室にミニ冷蔵庫・ネット接続環境完備

― 短期入所定員は６名に増員 ―

次長　山　際　　量

テレビ放送の完全デジタル化移行に伴い（福島県は震災の被害により来年三月末まで延長）、野の花ホームは、二月までに全居室テレビの地デジ化が完了しました。

外出する機会がそれ程多くない利用者にとってテレビは大きな情報源であり、また楽しみともなっております。一同きれいな画面に大喜びです。

また、昨年度完成した個室棟には、ミニ冷蔵庫設置とＬＡＮケーブルの敷設工事を行い、短期入所でご利用される方に、家庭環境と遜色ない施設サービスの提供が可能になりました。

この夏には、ネットを見ながら冷えたビール！　なんて光景も見られました？

快適な環境が整備されたことにより、十月一日から短期入所の定員を四名から六名に増やすことになりました。

これまで、ご利用希望があっても満室でお断りするケースもありましたが、これでいつでもご利用いただけます。

私を変えた一言・一冊

第7回

『分岐点…二つの言葉』

生活支援員　草野　桃子

私を変えた一言…それは、**「後戻りできないなら、前に進めばいい！」**です。

私が卒業後すぐに就職して、あれこれと壁にぶつかっていた時に、高校時代の友人が贈ってくれた言葉です。

初めてぶち当たった大きな壁ともいうべき社会の厳しさに、日々泣いてばかりで、「あの頃はよかった…あの頃に戻れたら…」と、昔を懐かしんでばかりいて、前を見ることが出来なかった時、友人がこの言葉を贈ってくれました。

「後ろを見て思い出に浸かっていても、過去へ戻ることはできない。だったら前を見て突き進むしかないんだ」ということを気付かせてくれた、私にとって、とても大切な一言です。

それと、もう一つ…。

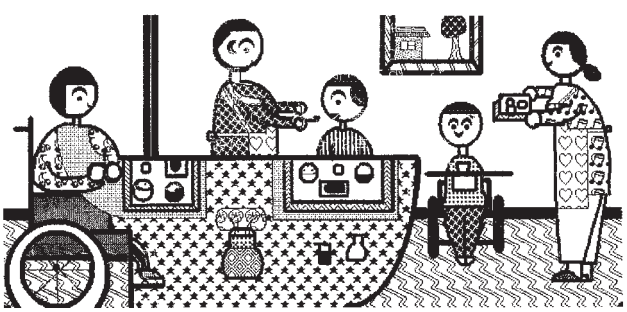
あるドラマの科白になりますが、**「大事なのはどの道を選ぶかではなく、選んだ道でどう生きるか」**

ドラマの科白ながら、この言葉にはハッとさせられました。

生きていれば誰しも難しい二者選択を迫られることがあると思います。その時に大事なのは、Ａを選ぶか、Ｂを選ぶかではないと思います。

例えば、Ａを選んだとしてうまくいかなかった時、「あー、やっぱりＢを選ぶべきだった」と思うのではなく、選んだ道でどれだけ頑張れるかが重要だ！と感じました。

人生の〝分岐点〟に差し掛かった時に聞いて、心に響いた、以上二つの言葉は、今でも私にとって、忘れることができない大きな一言となっています。



☆平成十七年四月一日より、個人情報保護法の全面施行に鑑み、紙面内写真は、本人等の了解のもと、掲載しております。

平成23年５月～８月の歩み

５月

12日　内部経理監査
20日　大河内一郎先生追悼記念会（シオンの丘）
23日　法人監事監査
30日　理事会・評議員会
31日　退職（生活支援員：伊藤　波）

６月

１日　社会福祉施設中堅職員研修（福島市　１名　～３日）
２日　法人設立記念日（永年勤続表彰１名）
豊田市社協へ震災時支援の御礼
（豊田市　次長　～３日）
６日　法人新採用職員研修（大河内記念館　３名　～８日）
12日　平バプテスト教会より花の日慰問
13日　障がい児者福祉施設協議会総会（郡山市　所長）
消防署による地下タンク査察
17日　アガッセへ震災時支援の御礼（会津若松市　所長）
21日　緊急時避難先予定施設への挨拶
（茨城県たまりメリーホーム　所長）
リスクマネジメント研修（郡山市　１名）
23日　東日本大震災による破損箇所修繕工事始まる
利用者日帰り旅行（大洗水族館）
28日　個室棟へのネットLANケーブル敷設工事（～29日）

７月

１日　東日本大震災のため、本日付で人事異動発令となる
岡部明所長（カナン村所長、大河内記念館館長へ）
田中敦子支援係長（シャローム支援係長へ）
佐藤護所長着任（光の家所長より）
伊藤友見生活支援員（シャロームより）
箱﨑高子支援係長（主任支援員より昇格）
松尾幸昌主任支援員（副主任支援員より昇格）
６日　東日本大震災による破損箇所修繕工事終了
11日　平養護学校評議員会（所長）
25日　歯科衛生士による口腔衛生指導
26日　草野恵子さん（利用者）昇天される

８月

２日　家族会役員会
３日　業者による床クリーニング（～４日）
17日　浄化槽法定検査
19日　不審者対応講習会（平養護　１名）
20日　介護福祉士実習指導者講習会
（郡山市　１名　～21日）
電気設備年次点検
27日　野の花ホーム夏まつり
29日　県内療護施設長会（郡山市　所長）
介護実習受入（いわき短大　２名　～9/9）
＊定例：喫茶「麦」毎月第４木曜日開店

トピックス

おめでとうございます！

法人設立記念日の６月２日、利用者サービスの向上に尽力されてきた松尾幸昌主任支援員が法人永年勤続表彰（20年）を受けられました。

よろしくお願いします！

【伊藤　友見（写真左）】

７月より、シャロームから異動となりました。今までとは違う仕事の中で戸惑うことも多い毎日ですが、「明るく楽しく！」をモットーに頑張りますので、皆さん宜しくお願い致します。

【鈴木　里美（写真右）】

この度、15年ぶりにまた当ホームにお世話になります。以前とは大分変わってしまい、戸惑う事も多くありますが初心に帰り、頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

我流点睛

あの忌まわしい3・11から、早、半年が経ちました。

被災県、特に原発問題を抱える我が福島県は、一時の緊迫感からは解放されたにしても、未だに甚大なダメージから立ち直れないままでいるのが現状です。

今後も問題山積という状況には変わりなく、日暮れて道遠しの感は否めませんが、そんな中にあっても、一縷でも未来への光明が見えてくるよう祈念し、また、これまで物心両面にわたり数々の支援をして下さいました全国の皆様に感謝申しあげ、本年最終号となります『野の花』81号をお届けします。

時間よおれは
おまへに聞くが。
おまへの未来は
ギラギラ光るか。

草野　心平
（Δ×Δp）

（写真　佐藤　功
編集　猪狩　純一）

●お知らせ●

野の花会と称し、各戸を訪問している募金活動は、野の花ホームとは一切関係ありません。